

耳吊り養殖のホタテガイに見られたカニの食害

小泉慎太郎・吉田雅範

目 的

2020年5月に実施した令和2年度春季陸奥湾養殖ホタテガイ実態調査で、カニの食害を受けたと考えられる耳吊り養殖ホタテガイが確認されたため、その概要について報告する。

材料と方法

2020年5月22日に野辺地町木明沖、野辺地町蟹田沖、同年5月26日に平内町小湊沖の養殖施設から採取された耳吊り養殖の2019年産ホタテガイについて、カニの食害でへい死したと考えられる死貝が確認されたことから、養殖施設の構造、作業時期等を聞き取りした他、耳吊りの吊り部の長さ、間隔、段数、1段あたりの吊り数を測定した。また、カニの食害を受けた段数を記録し、耳吊り全体と死貝をデジタルカメラで撮影した。

結果と考察

各調査地点における漁場水深、養殖施設の幹綱深度、耳吊り作業時期、耳吊りの構造、カニの食害を受けた段数を表1に示した。また、カニの食害を受けた耳吊り全体及び死貝の様子を図1~4に示した。耳吊りの下段に貝殻が割れた状態の死貝が複数見られ、耳吊り下部が海底に接近もしくは接触したことで、海底に生息するカニに捕食されたものと考えられた。近年、陸奥湾でトゲクリガニが大量発生し、地まきホタテガイが食害を受けていること¹⁾、トゲクリガニはホタテガイの貝殻を砕いて軟体部を捕食すること²⁾が報告されている他、平内町清水川地区の漁業者から「耳吊りロープ下部1mのホタテガイが貝殻を砕かれて死んでいる。玉付けのたびに確認しているが、かなりの連数で同様の死貝が見られる」と情報提供があったことから、今回の耳吊り下段に確認された死貝は、トゲクリガニの食害によってへい死したものと推察された。

表1. カニの食害が確認された調査地点における漁場水深等

調査地点	漁場水深 (m)	幹綱深度 (m)	耳吊り時期	耳吊りの構造				カニの食害を受けた段数
				長さ(m)	間隔(cm)	段数(段)	吊り数(枚/段)	
野辺地町木明沖	28	12	2020年4月中旬	9.2	12	78	2	4段(70,74,77,78段目)
野辺地町蟹田沖	30	20	2020年4月中旬	9.5	12	86	2	15段(72~86段目)
平内町小湊沖	21	8	2020年1月下旬	7.4	10	74	2	11段(64~74段目)
平内町小湊沖	21	8	2020年1月下旬	6.9	10	72	2	11段(62~72段目)



図 1. カニの食害を受けた耳吊り（野辺地）



図 2. カニの食害でへい死した死貝（野辺地）



図 3. カニの食害を受けた耳吊り（小湊）

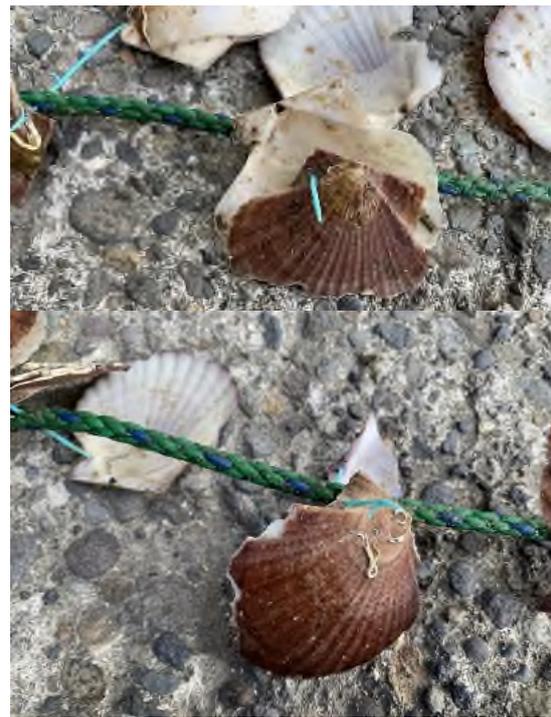


図 4. カニの食害でへい死した死貝（小湊）

文 献

- 1) 山内弘子・吉田達（2021）トゲクリガニが地まきホタテガイに与える影響（野辺地地区）. 2019年度地方独立行政法人青森県産業技術センター水産総合研究所事業報告, 487-489.
- 2) 吉田達（2020）トゲクリガニによるホタテガイ稚貝の食害. 平成30年度地方独立行政法人青森県産業技術センター水産総合研究所事業報告, 341-342.